

科学研究費補助金（学術創成研究費）研究進捗評価

課題番号	18GS0316	研究期間	平成18年度～平成22年度
研究課題名	生体内代謝産物をモニターする転写制御機構の構造基盤		
研究代表者名 (所属・職)	森川 耿右（大阪大学・蛋白質研究所・特任研究員（客員教授））		

【平成21年度 研究進捗評価結果】

該当欄		評価基準
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

（評価意見）

本研究課題においては、構造学的研究と生物学的・分子生物学的研究が有機的に融合して進んでいるとは必ずしも言えないものの、核内受容体とリガンドの共有結合形成による受容体活性化の可能性やヒストンメチル化機構を解したヌクレオメチリンの作用メカニズムの解明など、それぞれ、ユニークで重要な成果をあげている。特に、核内受容体に存在するCysに対する共有結合が核内受容体の活性化に参与するという発見は、一般的な核内受容体の活性化機構として、広い範囲の核内受容体に適用可能であると期待される。

新しい分野を切り拓く学術創成研究費に相応しい研究の進展であると考えられる。

【平成23年度 検証結果】

検証結果	研究進捗評価結果どおりの研究成果が達成された。
A	研究進捗評価結果で問題点として指摘された、「構造学的研究と生物学的・分子生物学的研究が有機的に融合して進んでいるとは必ずしも言えない」という点は、十分には克服できてはいないが、全体として立体構造解析に基づくユニークかつ重要な研究成果をいくつも挙げた。その研究成果は、目標として定めた「生体の恒常性維持の分子機構を解明するうえで低分子代謝産物の構造と機能についての新たな基本的概念の提唱」の今後の展開への基盤を十分に築くものであり、学術創成研究費として相応しい研究成果であると評価する。また、研究成果の公表も順当になされている。